

令和3年度(2021年度)学校評価報告書

学校園名	宝塚市立 西山幼稚園	校園長名	三ヶ尻 桂子
------	------------	------	--------

1 学校教育目標

心豊かに たくましく生きる子 (にこにこ しっかり やり遂げる にしやまっこ) 元気に遊び、おもいやりのある子 ② あきらめずにやりぬく子 ③ 自分で考えて行動する子
--

2 重点目標

<ul style="list-style-type: none"> 主体的に考え、活動する幼児の育成に努める。 豊かな感性を育み、創造力、思考力、道徳性の芽生えを培う。 「心と心のふれあい」を大切に、健康で安全な生活に必要な基本的生活習慣と態度の育成に努める。 家庭、地域、地域の就学前施設及び小中学校・高等学校との連携を密にし、相互理解を深める。

3 学校自己評価結果 (A: 優れている B: 良い C: おおむね良好 D: 要改善)

領域	評価の観点及び評価項目		達成状況	学校の取組状況・改善の方策	4 評価項目ごとの学校関係者評価
学校運営	開かれた幼稚園づくり	情報発信	A	<p>コロナ禍により、お迎え広場、参観等で直接子どもたちの様子を観たり、聞いたりしていただく機会をもてないことが多かった。そのため、昨年度に引き続き、ホームページを毎日更新したり、写真に子どもの様子や成長についてコメントをつけ掲示し、タイマーに発信するように努めた。また、1学期末、2学期末には、子どもの様子や成長について、写真にコメントをつけ、スライドショーにて報告した。保護者の方にも喜んでいただいた。</p> <p>保護者の評価のなかには、先生ともっと話をしたかったという声があった。どの様な状況下でも、保護者の方が話をしやすい環境づくりに努めたい。</p>	<p>毎日のホームページ更新により、保護者に園の様子や、子どもの成長について発信できたことは、素晴らしい。</p> <p>コロナ禍で制限があり、大変だと思うが、保護者の方に直接観ていただいたり、話をしたりする機会を、工夫してつくってほしい。</p>
	衛生安全管理	新型コロナウイルス感染予防対策 不審者対応 安全点検 衛生管理	B	<p>弁当時の衝立や、状況に応じて3保育室に分かれて食べるなど、柔軟かつ徹底して感染予防対策を行うよう努めた。また、子どもたちには、折にふれて話をしていくことで、子どもたち自身が意識して取り組む姿が見られるようになった。</p>	<p>新型コロナウイルス対応で大変だと思うが、対策については適切に行われていた。</p> <p>子どもたち自身がソーシャルディスタンスや、手洗いうがいの励行などを意識して取り組んでいることは、自分の命を、自分で守ることにつながってよい。</p>
	子育て支援の充実	預かり保育の充実 相談・学びの場	B	<p>「おいでおいでひろば」(未就園児親子教室)は、緊急事態宣言やまん延防止重点措置の発令が出ていない時には実施できた。ペインティング遊びや楽器遊びなど、幼稚園ならではの経験ができるよう、内容の工夫に努めた。</p> <p>預かり保育は、年間を通して実施することができた。</p>	<p>コロナ禍で、未就園児親子が集う場が少なくなっている。ぜひ、幼稚園でその機会をつくってほしい。</p> <p>預かり保育については、途切れることなく実施できよかった。</p>

	教職員の資質向上	深い幼児理解 研修への参加	B	オンラインでの研修も増え、幼児理解や保育内容の充実などについて、学ぶことができた。また、日々の保育の中で、子どもへの関り方を互いに学び合ったり、気付いたことを伝え合い、子どもの成長につながる援助について考え合うことができた。	資質向上に向け研修を積むことで、より充実した保育につなげてほしい。
教育課程	幼児期にふさわしい生活の工夫	幼児が主体的に遊ぶ 保育の創造	A	感染予防対策をとりながら、子どもたちが自ら、やってみようことや、好きな遊びを見付け、夢中になって遊べるよう、環境づくりや保育内容の工夫に努めた。	秋のオープンスクールを参観したり、スライドショーを観たりしたが、幼稚園が子どもたちの主体性を大切に保育に励んでいることが伝わった。
	基本的な生活習慣の育成	基本的な生活習慣の確立	A	日々の生活や保健指導を通して、自分の身の回りのことは自分ですることや、話を聞く姿勢を身に付けられるように、繰り返し伝えていった。引き続き、教師が意識を高くもって、取り組んでいく。	コロナ禍ということもあり、特に、手洗い、うがいなど、衛生面につて、子ども自身が気を付けて行うようになっている。
	校種間連携	保・幼・小・中・高との交流	C	地域の保育所(園) 私立幼稚園、小学校、中学校の管理職の連携は、紙面を通して2回、会議として1回実施することができ、地域の子どもの実態や課題を共通理解することができた。 西山小学校とは、子ども同士が休み時間などに自然と触れ合ったり、校長先生がニシヤマンになって訪れてくださったりと、子どもが小学校に親しみをもてた。	コロナ禍であったので、交流は難しかったと思うが、その中でできることに取り組んでいる。
課題教育	人権教育の推進	幼児期にふさわしい人権意識の育成 国際理解	B	英語やスワヒリ語に触れたり、世界地図で様々な国に興味をもったりと、教師も子どもも楽しみながら学ぶことができた。	子どもたちの、国際理解や多文化共生に取り組んでいる。
	特別支援教育の充実	配慮をする幼児を核にした学級経営	B	一人一人の個性を大切にしながら、集団活動に参加できるように、学級の子どもと共に支えてきた。	引き続き、一人一人の子どもを大切に作る保育を進めてほしい。
独自項目	地域との連携	まちづくり協議会等 地域組織との連携	B	コミュニティへの参加、評議員、民生委員の園訪問などで、幼稚園や地域について情報交換をしたり、園経営についてアドバイスをいただいたりした。	人数が少なくなったので、地域には出やすくなったのではないかと。今後は少人数を活かし、もっと地域とつながりをもてばよい。自分の住む地域を知ったり、親しみをもったりしていき、社会性を観に付けさせることも必要である。

5 学校評価の実施方法についての学校関係者評価

実施方法については、適切である。

6 総合的な学校関係者評価

- 子どもの主体性を大切にしていることが分かり、感心した。
- 地域から公立幼稚園がなくなるのは残念であるが、決定してしまったのは仕方がない。残りの2年間をいかに充実させていくかが重要である。しかし、幼稚園だけで充実させていこうというのは、大変である。地域の活動にうまくのっていき、一緒に進んでいくのがいいのではないかと。